

水上村スポーツ合宿支援 新たな局面へ

足関節トレーニングに取り組み、事業のリーダーを務める宮崎助教（足関節パート担当）



寄稿

健康・スポーツ教育研究センターが水上村で毎年7、8月期に行っているスポーツ合宿支援が4年目を迎えました。今年も計10高校の陸上部員約200人を対象に各種チェックや実技講座などを行いました。本学と包括連携協定を結んでいる水上村は、合宿拠点となっている湯山地区にある旧湯山小学校の廃校舎を宿泊所として活用する方針で、各種計測器を備えるなどして本学の取り組みをさらにバックアップしてくれる予定です。スポーツ合宿支援は新たな局面を迎えることになります。これを機に、同センターの松原誠仁副センター長にこれまでの取り組みを総括してもらいました。

健康・スポーツ教育研究センター
松原 誠仁 副センター長

総合病院に加え、成尾整形外科病院からの支援も得て、本事業を一層充実させることができました。さらに、2023年には明治と本学および水上村との連携により、「合宿飯」の開発と実装を実現し、アスリートの知識と意識改革に挑んできました。

このような取り組みを通じ、選手達の自らを極限まで追い込む探求者たる姿を目の当たりにし、1人の持つ力は限られますが、多様な人と対話を通じて課題解決に向けた協働体制を構築し、その多様性を武器にすることで、結果に結びつけることが可能であると確信しました。今後、水上村は2025年を目標に廃校をリノベーションした新たな合宿拠点施設の計画を進めています。本学のスポーツ合宿支援もまた、これに伴い新たな変容を求められることになるでしょう。しかし、これまでに得た「対話を通じた協働体制の構築」をさらに発展させ、新たなスポーツ合宿支援に取り組んでいきたいと考えています。

今年も7月と8月期の水上村におけるスポーツ合宿支援事業が終了しました。本事業は、昨年度の終了直後から、主幹校である九州学院高等学校の禰監督や大牟田高等学校の赤池コーチと共に、その意義について再考し、多くの議論を重ねてきました。その結果、久保下准教授、枝尾講師、荒木（理）講師、宮崎助教を中心に、競技力向上のためのトレーニング講座および故障を抱える選手のための実技を主軸としたプログラムが展開されました。

合宿には、計10校から約200人の選手が参加し、座学において知識を習得しました。その後、故障を抱える約30人の選手が実技に取り組みました。また、当初から本事業に深い理解を示してくださっている朝日野総合病院の理学療法士の方や、スポーツリハビリテーションコースの学生も加わり、これに挑戦したチームによる取り組みは、大変価値のあるものとなりました。このような試みは国内でも非常に珍しく、視察に訪れた今夏のパリオリンピック女子1500mおよび5000mに出場した田中希実選手（New Balance）の西脇工業時代の恩師である足立幸永先生（現神奈川大学ディレクター）から、温かい賛辞を頂いたことは、我々にとって非常に感慨深いものがあります。

陸上長距離選手にとって、夏合宿は秋冬シーズンに向けた重要な鍛錬期であり、通常では困難な高いレベルの量と質を求めたトレーニングを行う場です。そのため、少しでも良好な環境を求めて合宿地が選定されますが、水上村は国内でも有数の合宿地としてその地位を確立しています。本学は、2021年より株式会社明治をはじめとする多くの方々の協力を得ながら、支援活動に取り組んできました。2022年には朝日野



本年度のスポーツ合宿支援に臨んだチーム

取り組みの幅広げ
多様な協働体制を構築

増悪因子の新たな相互作用の解明目指す

現在、国民の2人に1人は何らかのアレルギー疾患に罹患していると言われています。そのアレルギー疾患のひとつである、アトピー性皮膚炎は様々な増悪因子により掻痒が増悪・寛解を繰り返す慢性皮膚疾患です。2017年には約51万人の患者がいると報告されており、近年患者数が急増している疾患でもあります。私は基礎研究の観点から、アレルギー疾患に共通して重要な抗体の一種であるIgEの産生制御メカニズムの解明を目指してこれまで研究を行ってきました。

今回、アトピー性皮膚炎の掻痒増悪に重要な因子の一つである神経成長因子(NGF)を介した刺激が痒みだけでなく、IgE産生にも影響を与えるのではないかと着目し、研究を行っています。IgEは、私たちの免疫細胞の一種であるB細胞と呼ばれる細胞が産生します。B細胞がIgEを産生するためには特定の刺激と遺伝子の再編成を必要としますが、その制御メカニズムはまだ完全には解明されていません。

本研究を通して、アトピー性皮膚炎におけるNGFとB細胞の相互作用がIgE産生に影響を与えるかを明らかにすることで、アトピー性皮膚炎における増悪因子の新たな相互作用の解明と新規生物学的製剤の開発に、基礎研究の観点から寄与できればと考えています。

水上村子育て支援事業

健康・スポーツ
教育研究センター

レポート

幼児の成長 楽しみながら促す

村内2保育所で「感覚運動あそび教室」

水上村の保育所に通う幼児(3～6歳児)33人を対象とした「感覚運動あそび教室」を8月9日(金)、21日(水)、27日(火)の計3回、同村の湯山保育所と岩野保育所で開催しました。

本学と水上村が締結した包括連携協定に基づく「水上村子育て支援事業」の一環で、夏季休暇期間を利用した学生のボランティア活動と小児発達領域の体験学習を兼ねた地域貢献の取り組みです。リハビリテーション学科(1～4年生)に向け参加者を募ったところ、募集開始2時間で予定人員を大きく超える33人が手を挙げてくれました。最終的にPT・OT・STの全専攻から計21人の学生(先着順)に参加してもらいました。

今回は、発育支援テーマを「眼球運動」「視知覚」「バランス感覚」「ボディーイメージ」「協調運動」の5つとし、テーマ要素を含む10種目の感覚運動あそびを提供し、子どもたちにチャレンジしてもらいました。子どもたちは集中して楽しんでくれて、帰り際には、学生たちの姿が見えなくなるまで手を振ってお見送りをしてくれました。学生たちにとっても、幼児と触れ合った貴重な体験が今後の実習や就職などへの一助になればと思っています。

(健康・スポーツ教育研究センター 益満美寿)



眼球運動や、
風船あそび、
目と手足の協調を狙った



「クモの巣くぐり」と題した遊びに興じる
子どもたち

中身は借りてからの楽しみ… 本の福袋



本との出会いを演出。ズラリと並べられた「本の福袋」



図書館だより

学生図書委員企画「本の福袋」とは、学生図書委員や教職員がお薦めの本を選び、中身が見えないようにラッピングし、メッセージをつけて展示、貸し出す取り組みです。何が入っているかは、借りてからの楽しみです。

借りた人たちからは、「本に感動し、ゆかりの美術館を訪問した」との声もいただきました。

夏休み中も継続していますので、どうぞお立ち寄りください。無くなり次第終了です。

図書館では、「本の福袋」を作りたい人も募集します。秋の読書週間に実施予定です。あなたの「推し本」をすすめるチャンスです。学生、教職員問いませんので、図書館カウンターまでお申し込みください。（図書館）

後期スタート控え履修登録相談会 24日

後期ガイダンスが行われる24日（火）、1年次生に向けた履修登録相談会を実施します。履修登録についてだけでなく、勉強のコツや大学生活についても相談できますので、気軽にお越しください。



日時：9月24日（火）12時～13時
場所：キャンパステラス

インフォメーション

週間行事予定（9月10日～9月16日）	
9/12（木）	北里柴三郎記念研究セミナー
9/13（金）	令和6年度 第1回利益相反に関する研修会

◇お断り) 週刊NEWSLETTER254号は9月17日（火）配信予定です。